

こんにちは！



福島高校



魅力ある 福島高校の 取り組み

～自ら学び
表現力ある
福高生～

進路ガイダンス



次世代
ペアレント
授業



わたしが
レポートします。



福島高校2年
生徒会長
ますだ なりひろ
増田 成宏さん

人生の糧となる貴重な講演会がありました。

いた方で、人生経験の示唆に富んだ方でした。

皆さんこんにちは。今回も私、福島高校生徒会長の増田成宏が福島高校の近況を紹介したいと思えます。

将来と向き合う良い機会に

10月2日、福島高校では「福高ハローワークようこそ先輩！」という講演会が行われました。福高ハローワークでは、1960年度の卒業生である川崎道生さんが在校生の私たちにたくさんのお話を教えていただきました。川崎道生さんは大手テレビ局に勤務されて

将来設計を考える講演会がありました

11月6日には「ライブプランナー」の方による将来について考える講演会もありました。その講演会では、ソニー生命のライブプランナーの方が来られ、将来設計とお金の管理について一緒に考えました。

川崎道生さんのお話は、豊富な人生経験の中で大切だと思う意識の在り方や行動の仕方など、物事の核心を突くようなお話をご自身の体験談を交えながらわかりやすく教えてくださり、人生設計の参考になる貴重な講演会でした。

日ごろの私生活では考えることのできない先の将来をこの講演会を通して考えることができました。今後の人生設計をしていく上で、経済的な面も考慮しながら、人生をより良くしていくことについて考えることができ、短い時間ではありましたが、充実した時間となりました。

福島高校では、上記の2つの講演会以外にもさまざまな講演会が行われ、人生の糧になるようなお話をたくさん聞くことができます。今後は、それぞれの理想とする進路を実現するために福島高校生全員で今年度のラストスパートをかけ、来年度に良い形でつなげ、絶好のスタートを切りたいと思えます。

ようこそ先輩



健康教育講演会



切実な医師不足

串間市の皆さまこんにちは。突然ですが、当院は厳しい医師不足に直面しています。私の赴任は2001年4月で、最古参となりましたが、記憶にある範囲では、今が最も厳しい医師不足の状況にあると思います。

現在の当院常勤医は、私の属する内科が、10月より常勤医1名が非常勤になり、院長含め3名(宮崎大学地域医療学講座より出向中の松田医師は、当院での総合診療科立ち上げと地域医療学の学生教育が本来の使命ですが、内科診療に大きく時間を割いてくださっている状況です)、整形外科2名、外科1名、麻酔科1名、産婦人科1名、泌尿器科1名の総勢9名です。皮膚科、耳鼻咽喉科は宮崎大学の非常勤の先生が診療され、内科と泌尿器科には毎日ではありませんが、大学の先生の応援があります。宮崎大学の研修医の先生たちも内科診療の貴重な戦力です。このように、非常勤の先生の力も借り、ぎりぎりの人員で日常診療を行っており、一人でも欠けるとその科が立ち行かなくなると思われる状況です。また、常勤医の年齢も上昇傾向にあり、30歳代はわずか2名、残りは40歳以上です。40歳を超えると、当直明けの日常勤務のきつさが身に染みます。

著：串間市民病院 内科
井上 龍二 Ryuji Inoue

Health Knowledge

健康マメちぎ

その当直ですが、本年10月からは、病院に泊まる本直医と緊急時の応援に当たる副直医(市内待機)の体制が敷かれています。もちろん、入院患者さまがいるので、通常、本直・副直医以外の各科医師も、入院患者さまの変化に対応できるようにしています。しかし、毎日24時間全てに対応していたら疲弊して身体が持ちません。そのため、患者さまの病状にもよりますが、本直医の判断で急患さんを中心として入院させて初期治療を行い、翌日以降に担当科の医師に引き継ぐ体制を導入しています(例：外科の先生が肺炎の急患を入院させ、翌日以降に内科医師に引き継ぐ)。また、当直医の判断にて他の専門医療機関に緊急搬送させていただく可能性もあります。従来より、心筋梗塞や脳卒中などは、専門施設に送っていたわけですが、さらには、入院患者さまのお看取りを主治医以外の当直医がさせていただく事も今後はあり得ると思えます。医師同士が相互補助を取り、できるだけ疲弊を軽減し、ひいては患者さまの診療に支障を来さないためにも、このように対応を取らせていただく場面が多々出てくるかと思えます。その点につきましては、市民の皆さまのご理解がいただけないと信頼ある医療が成り立ちませんので、当院の現状をくんでいただきご高配の程よろしく願います。もう一度、日常診療に戻りますが、

午後は、各科とも病棟患者さまの診療・手術・処置・検査などで、外来診療が難しい事が多い現状です。お手数ですが、午後の診療については、各科外来にお電話をいただき、診療可能かを事前に問い合わせただければ幸いです。当院のみならず、市木診療所所長先生が辞職予定であり、串間市の公的医療機関の現状は非常に厳しいです。人口の都市部集中、地方の人口流出、過疎化と同様に、医師も都市部に集中し、地方は慢性的な不足という構図を呈し、その打開は非常に困難ですが、何とか突破口を見つけねばと思えます。昨今の串間を見渡すと、「自動車道開通実現は?」「生徒数減少に伴う中学校再編」「福島高校の存続」、身近な所では「清掃工場の閉鎖」など、暮らしている不安材料に溢れていると感じます。安心した生活の根幹の一つである医療も危機に立たされておられ、それを何とか乗り切れるように、医療、行政関係者はもちろんですが、市民の皆さまにも切実な問題と考えていただきたく、重たい話題ですがお伝え致しました。病院の事情を押しつけるような文面になった箇所もあり、不快な思いをされた方がおられたらお詫び申し上げます。当院の現状を踏まえ、お許しただければ幸いです。季節の変わる折、皆さまの日々の健康を心よりお祈り申し上げます。